

# 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

|         |                      |            |  |
|---------|----------------------|------------|--|
| 事業所番号   | 2970101842           |            |  |
| 法人名     | 有限会社ハヤシ              |            |  |
| 事業所名    | グループホーム エルハヤシ学園前センター |            |  |
| 所在地     | 奈良市学園朝日町12-10        |            |  |
| 自己評価作成日 | 平成26年9月8日            | 評価結果市町村受理日 |  |

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先 [px.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_2014\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=2970101842](http://px.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2970101842)

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

|       |                |    |           |
|-------|----------------|----|-----------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 Nネット |    |           |
| 所在地   | 奈良県奈良市登大路町36番地 |    |           |
| 訪問調査日 | 平成26年10月1日     | 一階 | メロディーユニット |

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは開設して10年を越えており地域密着型の共同生活介護で入居されているみなさまには快適な生活の場と自立支援サービスを継続的に提供する事を基本品質方針としています。入居者のみなさまには家庭的な環境の中で日々生活できるよう支援しており、1月の新年会を始め一年を通して季節に応じたイベントを開催しております。特に会長自ら音楽療法を実施しており、夏に行う音楽祭にはハヤシグループ全体の利用者が参加して、年に一度、歌の練習の結果を発表しています。また入居者と職員の和を大切に日々の生活を楽しく活気のあるものにしていきます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かな住宅地のなかにある当ホームは、独自のサービス提供で10年を超える実績を持っている。音楽療法を積極的に取り入れ、理念にもそのことを謳い、法人の開催する音楽会に参加し、発表の場を作るなど、利用者の心を豊かにし、張り合いを育む支援を行っている。花見、花火大会、体育祭、秋のフェスティバルなど法人全体の行事に参加し、利用者が多くの人たちと交流する機会を作る支援もされている。職員は法人が行う研修に全員が参加し、ケアの実践に活かせるように努めている。

| 項目 |  | 取り組みの成果<br>該当するものに印   | 項目 |   | 取り組みの成果<br>該当するものに印   |
|----|--|---|----|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>(参考項目:23,24,25)       | 1. ほぼ全ての利用者の<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている<br>(参考項目:9,10,19)   | 1. ほぼ全ての家族と<br>2. 家族の2/3くらいと<br>3. 家族の1/3くらいと<br>4. ほとんどできていない    |
| 57 | 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>(参考項目:18,38)              | 1. 毎日ある<br>2. 数日に1回程度ある<br>3. たまにある<br>4. ほとんどない                  | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>(参考項目:2,20)                     | 1. ほぼ毎日のように<br>2. 数日に1回程度<br>3. たまに<br>4. ほとんどない                  |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>(参考項目:38)                   | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>(参考項目:4) | 1. 大いに増えている<br>2. 少しずつ増えている<br>3. あまり増えていない<br>4. 全くない            |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている<br>(参考項目:36,37)    | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 66 | 職員は、活き活きと働いている<br>(参考項目:11,12)                                      | 1. ほぼ全ての職員が<br>2. 職員の2/3くらいが<br>3. 職員の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない       |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>(参考項目:49)                  | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う                                       | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている<br>(参考項目:30,31)         | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                                   | 1. ほぼ全ての家族等が<br>2. 家族等の2/3くらいが<br>3. 家族等の1/3くらいが<br>4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている<br>(参考項目:28) | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |    |   |   |

## 自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Alt+Enter)です。

| 自己              | 外部  | 項目   | 自己評価  | 外部評価   |  |
|-----------------|-----|--|---|--|--|
|                 |     |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容  |
| <b>理念に基づく運営</b> |     |  |   |  |  |
| 1               | (1) | 理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている                            | 音楽でもって心豊かになる。人を助け我が身が助かる(助け合いの精神)。1人ひとりの尊厳を大切にす、というのが理念として地域の交流や入居者が主体的に自己実現できるような援助をするよう努めている。 | 音楽療法を基軸として、3つの法人理念を作っている。法人の開催する定期演奏会に参加することで理念の実践が図られている。   | 地域密着型サービスの意義を踏まえ、利用者が積極的に地域と関わって暮らしていけるよう、理念や運営方針の再検討を希望する。                              |
| 2               | (2) | 事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している                            | 地域の自治会に入会し行事には入居者の参加を呼びかけ交流をしている。また当グループホーム主催の行事に地域住民に声掛けをして参加をしてもらっている。                        | 自治会に加入し、年1回の清掃活動に参加している。地域とは広報誌の回覧や、少数の利用者が散歩、買い物するくらいで交流は少ない。家族、面談に来られた方、運営推進会議の参加者、たまにボランティアなどが来られている。     | 利用者が地域とつながりながら暮らせるように、管理者は地域との交流の機会を積極的に作られることを希望する。地域住民との交流の機会であった「夏祭り」を再び開催されることを希望する。 |
| 3               |     | 事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている                          | 地域の行事や清掃等に参加するなど地域の皆さんと交流を出来るよう取り組んでいる。   |  |  |
| 4               | (3) | 運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている       | 運営推進会議では当事業所の行事や活動を、自治会長、民生員、包括支援センターの方々と話し合い地域に貢献できるよう取り組んでいる。                                 | 3カ月に1回、運営推進会議を開催している。その席で法人代表は、自治会長や民生委員に、事業所と近隣との交流や非常災害時の地域協力をお願いしている。それに対する参加メンバーからの質問、意見などは議事録に記載されていない。 | 法人代表が参加する運営推進会議に家族の参加が望まれる。外部評価結果についても話し合い、参加メンバーと意見交換してサービスの向上につなげてほしい。                 |
| 5               | (4) | 市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる                 | 市の担当者に積極的に相談し意見や助言をもらい協力関係を築くように取り組んでいる。また市からの問い合わせにも常に対応している。                                  | 介護認定更新や生活保護を受けておられる利用者の対応、骨折事故の報告など、それぞれの市担当者に事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えている。                                      |  |
| 6               | (5) | 身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 研修会や講習会に職員全員が参加している。また内容を理解し身体拘束のないケアに取り組んでいる。  | 法人が開催する研修会や講習会に職員全員が参加している。骨折された利用者の退院後のケアについて、見守りを重視し、ソファや車椅子を利用するなど職員間で話し合いがされ支援に努めている。                    |  |
| 7               |     | 虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている       | 研修会や講習会に職員全員が参加している。また理解をすると共に管理者は職員に気を配り虐待がないよう注意を払って防止に努めている。                                 |  |  |

| 自己 | 外部  | 項目  | 自己評価   | 外部評価  |  |
|----|-----|---|--|---|--|
|    |     |   | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容  |
| 8  |     | 権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している    | 研修会や講習会に職員全員が参加している。そして制度を理解し入居者が活用される場合、支援をする体制になっている。                                  |   |  |
| 9  |     | 契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている                         | 契約の時、家族や入居される方と面談のとき、重要事項書に従って質問や疑問に答え十分な説明を行っている。また解約や改訂時も家族や入居者に理解、納得できるよう十分な説明を行っている。 |   |  |
| 10 | (6) | 運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                     | 入居者の家族の方の面会時や電話などで気軽に話ができるよう心がけている。意見、相談や苦情があればすぐに責任者に報告して対応してそれらを運営に反映させている。            | 利用契約時に法人代表が同席し、家族に面会や外出同行のお願いをしている。また施設利用料は月1回家族が直接事業所に持参するのを原則としており、その時に意見を聞くように努めている。 | 運営推進会議に家族の参加を求め、事業所の現状を知ってもらったり、家族からの意見や要望も聞くように努め、他の参加者からの意見も参考にして日々のケアや運営に活かされてはどうか。 |
| 11 | (7) | 運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている                                      | 職員からの意見提案を聞く機会を設けている。会議など意見や提案の出しやすい職場作りに努め意見や提案を検討した後、運営に反映させている。                       | 毎月1回法人主催の職員会議があり、職員からは活発な意見が出されている。事業所内では週1回ケース会議が行われ、職員の意見を聞いている。                      |  |
| 12 |     | 就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている      | 代表者は管理者や職員個々の勤務状況を把握することに努め職員個々の考えや希望などで調査して職場環境・条件の整備に努めている。                            |   |  |
| 13 |     | 職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている         | 月に一度講習会等を行っている。また代表者は管理者や職員1人ひとりの介護について観察し話し合いなどして職員1人ひとりに応じた指導や研修を行っている。                |   |  |
| 14 |     | 同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 同業者との意見の交換を行っている。また他の施設などの介護方法や活動を通じてサービスの質の向上を少しでもできるよう取り組んでいる。                         |   |  |

| 自己                       | 外部  | 項目  | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|--------------------------|-----|---|--|--|-------------------|
|                          |     |   | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |     |   |  |  |                   |
| 15                       |     | 初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 面談のときや入所されたときより、本人や家族から不安なことや要望を聞いたりまた様子を見ながら関係づくりに努めている記録を残し職員連絡ノートなど利用して職員全員が共有できるようにしている。 |  |                   |
| 16                       |     | 初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている            | 家族のかたの面談や面会を通して不安なことや要望などを聞き取り関係づくりに努めている。   |  |                   |
| 17                       |     | 初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている        | 本人と家族等が必要としている支援内容を見極めて介護支援専門員や病院の相談員などと共にその時に特に必要な支援を優先して柔軟に対応している。                         |  |                   |
| 18                       |     | 本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                        | 日常生活の暮らしの中で職員は入居者の喜び悩みし思い願いを共感したりして、暮らしを共にする者同士の関係を築くよう努めている。                                |  |                   |
| 19                       |     | 本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている         | 入居時に十分家族と話し合い入居後も本人の近況状況や日常の変化の報告を随時行い家族との信頼関係を築きともに本人を支えていく関係を築いている。。                       |  |                   |
| 20                       | (8) | 馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                     | 家族、友人、知人など常に面会ができ、馴染みの方の訪問も受け入れている。希望もあれば家族の協力を得ながら馴染みの人や場所への外出など実現できるよう努めている。               | 利用契約時に法人代表が、家族に面会や外出同行のお願いをしている。食事、通院、美容院、盆正月の外出など家族と連絡を取りながら支援している。 |                   |
| 21                       |     | 利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                  | 職員は入居者同士の関係を把握し座席位置など調整したり1人ひとりが孤立させないように入居者同士が関わり合い支え合うように職員が見守り配慮に努めている。                   |  |                   |
| 22                       |     | 関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている  | サービス利用が終了した場合でも相談や問い合わせなど、情報収集を行いこれまでの関係を大切にしている。  |  |                   |

| 自己                       | 外部   | 項目  | 自己評価  | 外部評価  |   |
|--------------------------|------|---|---|---|---|
|                          |      |   | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容   |
| その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント |      |   |   |   |   |
| 23                       | (9)  | 思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している   | 入居者の思いや希望を家族や本人から尋ねたり日々の生活の中で雰囲気などで察したりしている。把握が困難な場合でも日頃の様子や家族と相談したりして本人本意の支援ができるよう検討している。                  | 利用契約時に家族構成や自立度などアセスメントをとっている。また介護認定更新時や変化があった時にはアセスメントを取り直している。日々の記録は利用者ごとの「経過記録」に記し、ケース会議で話し合っている。 | 病歴やADLだけでなく、生活歴や趣味、特技、生き甲斐なども記入できるアセスメントシートの工夫が望まれる。また「経過記録」への具体的記述が少ないので、利用者の様子や職員の気づきなども記入し、介護計画や日々のケアに活かされることを希望する。ケース会議には、ケアマネジャーも参加し密度の高い会議になることを期待する。 |
| 24                       |      | これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                                       | 面談時や入居時に家族の方から入居者1人ひとりのいままでの暮らしの経過や経験を聞き各入居者に対しその人らしい生活が送れるよう支援に努めている。今までのサービス利用などの記録も管理して全職員が把握できるようにしている。 |   |   |
| 25                       |      | 暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている   | 入居者の1人ひとりの暮らしの中で僅かな変化にも注意を払い一日の様子や気づいた点をひやりハットなどで記録している。担当職員同士で話し合い、会議やケース会議を行いその時の状態に応じた支援を行うよに努めている。      |   |   |
| 26                       | (10) | チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 入居者本人、家族の意見や要望を把握し反映している。また話し合いをして入居者本人の意思を尊重し現状に即した介護計画を作成している。  | ケアマネジャーはアセスメントシート、「経過記録」や職員の意見をもとに介護計画を作成している。家族に説明、同意を得ている。介護計画について毎月モニタリング、評価をし、見直しもされている。        |   |
| 27                       |      | 個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                        | 入居者の日々の様子や気づいた点を各利用者ごとに経過記録や連絡ノートに記録し、ケース会議等をして職員間で情報を共有しており、それをもとに実践や介護計画の見直しに活かしている。                      |   |   |
| 28                       |      | 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる               | 同じグループの特別養護老人ホームと連携して季節ごとに行事を行って折、柔軟な支援や対応が可能である。   |   |   |

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|------|--|---|---|-------------------|
|    |      |  | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 |      | 地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                                      | 地域との社会交流をはかるため、ボランティアによる楽器演奏などのある場合はイベントを行って支援している。   |   |                   |
| 30 | (11) | かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                                  | 本人及び家族等の希望を大切に、契約時に説明をし納得をえて適切な医療を受けられるように支援している。緊急時には施設の提携病院等で対応できるよう説明しており、家族の希望に添って支援している。                               | 利用者の3分の2位は、本人のかかりつけ医に家族同行で受診している。年1回協力病院で定期健診を行っている。体調不良時は、家族と連絡を密に取り合っている。   |                   |
| 31 |      | 看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                          | 職員は入居者の僅かな変化をなど気づいたときは職場内で看護師と連携し、相談をして適切な助言を得ている。  |   |                   |
| 32 |      | 入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 協力病院と提携を保ち、疾病時の入院先の病院関係者との情報交換や相談に努め、早期に退院できるようにしている。   |   |                   |
| 33 | (12) | 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる  | 重度化や終末期については、入所時に家族の方針について確認している。事業所でできることも十分に説明しながら、状態の変化に合わせてその都度家族と話し合いをしている。協力病院や協力施設などの地域の関係者とも連携をとり、共にチームで支援に取り組んでいる。 | 看取りの指針は作成されていないが、利用契約時には看取りについて、家族の意向を確認し、事業所が対応できることについても話し合いがされている。状態の変化に合わせて話し合いがされ、結果的には医療機関へ搬送している。事業所での看取りの事例はない。 |                   |
| 34 |      | 急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている  | 社内の研修制度で職員全員が応急手当や初期対応の訓練を受けており、入居者の急変や事故発生時に備え実践力を身に付けている。   |   |                   |
| 35 | (13) | 災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている  | 昼間、夜間を問わず災害を想定した避難訓練を定期的実施している。また災害時には地域との協力体制について日頃から理解し、常に実行できる体制を築いている。  | スプリンクラー、緊急通報装置、火災受信機、消火器等を完備している。利用者も参加しての避難訓練を、年2回実施している。災害時には法人代表に密に連絡をし、支持を仰いでいる。運営推進会議で代表が非常災害時の地域協力をお願いしている。       |                   |

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価   | 外部評価   |  |
|----|------|---|--|--|--|
|    |      |   | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容  |
| 36 | (14) | 一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている                   | プライバシーの保護について職員全員が研修を受けたおり1人ひとりの人格を尊重し日頃から言葉かけや対応については指導を行っている。また記録の仕方についても注意をしている。  | プライバシー保護や接遇についての研修を行っている。職員は利用者個々に合わせた言葉掛けや対応に配慮し、支援している。  |  |
| 37 |      | 利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている                     | 利用者本人ができるだけ思いや希望を話すことができるように日頃の会話のときなど話をよく聞き理解できるように支援している。また会話など言葉で表すことがむずかしい方については表情や動作で理解できるように、思いを推し量るような支援を行っている。また記録に残している |  |  |
| 38 |      | 日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 日々的生活中で入居者1人ひとりのペースにあわせて起床、食事、入浴、就寝など行っている。また施設の中でゆっくりしたい人や買い物ツアーなど外出したい人など、本人の希望にそって支援している。                                     |  |  |
| 39 |      | 身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                  | 日頃から身だしなみやおしゃれには気をつけている。外出のときなど利用者の希望に合わせた服装や髪型をしてもらうように支援している。また定期的に散髪している。   |  |  |
| 40 | (15) | 食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている     | 入居者の能力や興味に応じて、食事の準備や配膳、片づけなど職員と一しよに行っている。特に食事の時間には個人差があるため、一人ひとりにあった時間でゆっくり楽しみながら食事をしてもらっている。                                    | 朝食は、ご飯、お粥、パンが日替わりになっている。昼、夕食の「おかず」は配食サービスを利用し、ご飯は事業所で炊いている。夕食には別に手作りのおかずを一品付け、味噌汁も付けている。準備や片付けを手伝う利用者もおられる。誕生会にはケーキを用意することもある。 | 週に1度くらいは、配食サービスの「おかず」を検食し、味付けや食材の堅さ等調理法が利用者にとって合っているか検討してほしい。またプラスチックトレイのままやカレー皿にひと盛りにしての提供は食事を楽しむ観点からも検討されることを望む。 |
| 41 |      | 栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている          | 食事と水分の摂取量を各個人別に記録し、十分な栄養摂取と水分の確保が行われているか確認するよう支援している。また摂取してもらうようにしている。   |  |  |
| 42 |      | 口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                   | 食事の後職員が声を掛け口腔ケアを実施している。また、自力でできない利用者は、職員の介助で口腔ケアを行っている。  |  |  |

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |  |
|----|------|--|--|---|--|
|    |      |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容  |
| 43 | (16) | 排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている                              | 排泄のパターンを把握して、習慣を活かして定期的にトイレ誘導を行い、トイレでの排尿・排便を促すことで、気持ちよく排泄ができ、自立に向けオムツの使用を減らしている。               | 約半数の利用者がリハビリパンツ・パットを使用している。それぞれの排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるよう支援に努めている。                                       |  |
| 44 |      | 便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる  | 排便の記録をつけ1人ひとりの入居者の便秘に注意を払っている。また水分の摂取量をチェックしたり軽い運動への働きかけを行い便秘予防に取り組んでいる。                       |   |  |
| 45 | (17) | 入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている                        | 入浴のときのシャワーや入浴時間など希望や体調に合わせて、可能な限り入っていただけるよう支援している。   | 概ね週2回、午後から入浴し、浴室、浴槽が大きいので2人ずつ入浴している。シャンプー、リンス、スポンジは利用者の好みに合わせ、個々に準備している。美容院で洗髪される方がいた。脱衣所に空調設備がない。    | シャンプーやリンスをそれぞれに合わせて準備し、気持ちよく入浴する支援をされているが、容器に黒い汚れが付着している。使用後は水で洗い流すなどひと手間お願いしたい。                       |
| 46 |      | 安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している   | 居室についてはエアコン等で適温と適度な照明の明るさにして静かで安らぐ環境を整えている。日中に適度に体を動かすことにより夜気持ちよく安眠・休息が得られるよう生活習慣を整えるように支援したい。 |   |  |
| 47 |      | 服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている  | 1人ひとりが試用している薬の説明書をファイルしてあり職員は服薬しているその薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。             |   |  |
| 48 |      | 役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている                             | 入居者それぞれ、その日に合った能力に応じた料理や洗濯などの役割を担っていただいており、1人ひとりが趣味や嗜好品で気分転換等が実行できるよう支援している。                   |   |  |
| 49 | (18) | 日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 家族の方と相談の上1人ひとりの希望にそって行き先を決め外出の支援をしている。普段はいけないような場所は家族等の協力を得て出かけられるよう支援している                     | 利用契約時に法人代表は、家族に面会や外出の協力をお願いしている。毎週土曜日を外出支援の日としているが、実施は難しい状況である。少数ではあるが、散歩や買い物に行く方がおられ、家族の協力で外出する方もある。 | 日常的な外出支援が難しい状況でも、利用者が事業所の中だけで過ごさず、個々のレベルに合わせた支援の方法を検討してほしい。また外出支援の実施を記録に残し、決まった方だけに偏らないよう配慮されることを希望する。 |



| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価   | 外部評価   |   |
|----|------|---|--|--|---|
|    |      |   | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容   |
| 50 |      | お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している  | 入居者の家族よりお預かりしているまかない金を利用して買い物ツアー時などに買い物をしてお金を所持し使える支援をしている。                              |  |   |
| 51 |      | 電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   | 入居者本人が希望すれば電話をしたりできるよう支援をしている。またご家族からもかかってくることもある。                                       |  |   |
| 52 | (19) | 居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 職員それぞれが整理整頓に気を付けている。居室の整理やベッドメイキングなど居心地よく過ごよう配慮している。また玄関には季節の花を植えたりしている。                 | 居間兼食堂には広いテーブル2台とピアノが置かれ、壁には「エル・ハヤシ学園前センター園歌」が掲示しており、利用者が気軽に歌っている。階段には昇降機と転落防止用の頑丈なフェンスが取り付けられている。                | 居間兼食堂は、廊下や台所に囲まれていて、外部と通じている窓は1か所である。庭を眺めたり、明かりや外気を取り入れるために、この窓を活用されることをお願いしたい。食堂のパイプ椅子は、日常生活上には不向きで、壊れているものもあり、考慮されてはどうか。冬場冷たい便座に座る利用者に思いをさせ、考慮されることをお願いしたい。 |
| 53 |      | 共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている  | 共同空間において1人ひとりが限定した場所で過ごすことのない心がけている。、ひとりになれたり、気のあった人同士が過ごせるように座る場所をときどき変えたりしている。         |  |   |
| 54 | (20) | 居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている  | 居室については本人の嗜好があり、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や好みのものを配置し、本人が居心地よく過ごせるよう支援している。                     | 居室は畳の部屋が多く、自分のベッドやタンス、仏壇、テーブルなどが置かれている。各部屋に押入れがあり、整理されており、好みのポスターや家族の写真を飾ってその人らしい部屋作りをしている。寝具は利用者全員がレンタルで使用している。 |   |
| 55 |      | 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している   | 入所もない方や自分の部屋がわかりにくくなった方などにはドアにネームプレートや目印になるものをつけて安全かつ自立した生活が送れるよう工夫して支援している。また見守りも行っている。 |  |   |